

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	オプトロセラミックスのナノプロセス技術によるインテリジェント光源開発
研究責任者の所属・氏名	物質研究所 北村 健二
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に蓄積があり、展開も見られるので更なる展開を期待する。 ・ 光セラミック材料としてかなり実用性が期待され、NIMSの蓄積が発揮される期待が持てる。 ・ 本プロジェクトでは、ナノマテリアルではなく、有望な特性を示すバルク材料（結晶）を扱っている。研究センターは、NIMSとして、バルク材料とナノマテリアルの間でよいバランスを取っている。この研究チームは高い光学機能を持った単結晶開発に対して独創的な寄与をしたとして、2005年度つくば奨励賞を授与されている。 ・ これは非常に幅広い包括的なフォトニックスのプロジェクトである。ナノの要素は常に明確ではないが、ゆるくITに結びついている。短波長レーザーの研究は世界的である。フォトニック結晶の研究は非常に巧妙であり、このような作製プロセスをこれまで見たことがない。 ・ この仕事は急速に市場に移行している。新しい研究は高い将来性を持っている。
評価点	S, S, A+, S, S, A, S, A+, S, A
総合評価点※	S-

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。